Ⅴ．国立大学法人等業務実施コスト計算書関係

引当外退職給付増加見積額のうち、△34,794千円は、地方公共団体からの出向職員に係るものであります。

Ⅵ．減損会計関係

１．減損の認識

当事業年度において、以下の資産について減損処理いたしました。

⑴　減損を認識した資産

（単位：千円）

用　途	種　類	場　所	帳簿価額	備　考
医学部の研究等	建物及び構築物	熊本市本荘２丁目２番１号 医学部基礎研究棟㈠	480	
教育学部の教育等	建物	熊本市黒髪５丁目17番１号 教育学部東教室	227	
病院の診療等	工具器具備品	熊本市本荘１丁目１番１号 医学部附属病院中央診療棟 （心血管用血管造影撮影装置）	33,792	
病院の診療等	工具器具備品	熊本市本荘１丁目１番１号 医学部附属病院中央診療棟 （リニアック放射線治療装置）	5,197	
合　計			39,697	

⑵　減損の認識に至った経緯

・　医学部基礎研究棟㈠

対象資産の医学部基礎研究棟㈠は、主に昭和32年から35年にかけて建設された建物ですが、老朽化による代替建物（医学部基礎研究棟㈡及び医学部図書講義棟）の完成に伴い、使用が停止され、当年度において、今後、使用しないことが決定されたため、減損を認識いたしました。

・　教育学部東教室

対象資産の教育学部東教室は、当年度において耐震改修工事を行いましたが、その内、電気設備の一部更新に伴い、当年度において、今後、使用しないことが決定されたため、減損を認識いたしました。

・　心血管用血管造影撮影装置

対象資産の心血管用血管造影撮影装置は、維持管理費用の高騰及び老朽化による新規資産のリース契約に伴い、当年度において、今後、使用しないことが決定されたため、減損を認識いたしました。

・　リニアック放射線治療装置

対象資産のリニアック放射線治療装置は、維持管理費用の高騰及び老朽化による新規資産の取得に伴い、当年度において、今後、使用しないことが決定されたため、減損を認識いたしました。

⑶　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産毎の内訳

（単位：千円）

場　所	種　類	減　損　額	うち損益計算書に計上した金額	うち損益計算書に計上していない金額
医学部	建物及び構築物	480	—	480
教育学部	建物	227	—	227
医学部附属病院	工具器具備品	38,989	—	38,989
合　計		39,697	—	39,697

⑷　回収可能サービス価額の算定方法等

資産の使用実績が著しく低下していることにより減損を認識しているため、回収可能サービス価額として使用価値相当額を採用しております。

使用価値相当額については、当該資産の帳簿価額に、当該資産につき使用が想定されていない部分（使用しないという決定を行った部分を含む。）以外の部分の割合を乗じて算出した価額を用いております。

２．減損の兆候

当事業年度において、以下の資産について減損の兆候が認められました。

⑴　減損の兆候が認められた資産

（単位：千円）

用　途	種　類	場　所	帳簿価額	備　考
廃液処理施設	建物	熊本市黒髪２丁目40番１号 有機系廃液処理施設	1,947	
研究宿泊棟	建物及び構築物	熊本県上天草市松島町会津6061番 研究宿泊棟	18,949	
合　計			20,896	

㈱　上記帳簿価額は平成22年３月31日時点の帳簿価額です。

⑵　認められた減損の兆候の概要

・　有機系廃液処理施設

平成21年10月から有機系廃液処理を外部委託し、施設の一部を使用していないため、減損の兆候を認めております。

・　研究宿泊棟

利用率が承継時と比較して50％を下回ったため、減損の兆候を認めております。

⑶　減損を認識しない根拠

・　有機系廃液処理施設

有機系廃液処理施設については、環境分析室として使用予定が決定しているため、減損を認識しておりません。